

牛久：学校周辺に見る自然

第22号 ひたち野うしく小

2011年7月11日発行

＜ 夏の水辺公園で生きもの探検！ ～その1. トンボ＞

あつ きび 暑さ厳しい7/6、ひたち野うしく小3年生は、水辺公園で夏の生きもの探検をしました。今回の観察は、昆虫などの動物たちがどこで何をしているか、どのような生活をしているかがテーマでした。

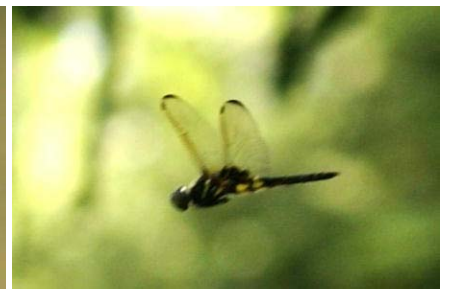
その1として、トンボの仲間を紹介しましょう。

1. ノシメトンボ（トンボ科 アカネ属）



この日、一番多く見られたのがこのノシメトンボでした。翅の端の黒っぽい模様が特徴で、秋には体全体がやや赤っぽくなりますが、いまは黄色が目立ちます。平地から低山の、水生植物が生い茂る浅めの開けた池や田んぼなどに多く見られるようで、牛久自然観察の森でもたくさん群れているのを最近見かけました。

2. コシアキトンボ（トンボ科 コシアキトンボ属）



次に多かったのが、これ。黒い腹部の前方に黄白色の帯があり、そこだけ空いているように見えるので「腰空きとんぼ」と名づけられたようです。右がメスですが、オスと比べて見かけ

るのは少ないように思います。もともとメスが少ないのでしょうか？ 左はオスで、けん制しあってホバリングし、このあと片方が追い払われました。このような縄張り争いがよく観察されます。

3. シオカラトンボ（トンボ科 シオカラトンボ属）



そして三番目は、おなじみのシオカラトンボでした。メスは左の写真のように黄色いので「麦わらトンボ」の別名もありますが、まるで別の種類のようにも見えますね。トンボにはこのように、オスとメスで模様や色の違う例が多いので、注意が必要です。シオカラトンボは、山里から街中まで、ため池や田んぼ、湿地などいろいろなところで見かけます。幅広くいろいろな環境に適応できるのででしょうか。

4. コフキトンボ (トンボ科 コフキトンボ属)

ここからは、あまり多くは見かけなかったトンボです。

このコフキトンボも初めは小さめのシオカラトンボ?とと思ってしまいましたが、よく見ると胸部の

模様が違います。また図鑑によると、翅を立ててとまるのも特徴の一つなのだそうです。左がメス、右がオスで、どちらも成熟すると腹部や胸部が白粉に包まれてくるので「粉吹きとんぼ」と名づけられました。写真のトンボも分かりにくいかもしれませんが、少し粉を吹いています。



5. ナツアカネ (トンボ科 アカネ属)



こちらはノシメトンボと並んでとまっていることも多いので、見落としてしまうこともあります。翅の先の模様も胸部の模様も違います。いまは黄色っぽく見えますが、秋になると赤く色づいてきます。特にオスは複眼も含め全身まっ赤に、「赤トンボ」の名にふさわしくなります。秋になったら、また紹介しましょう。忘れてたら、言って下さいね。

6. ショウジョウトンボ (トンボ科 ショウジョウトンボ属)



この時期にまっ赤な体をしているのは、ショウジョウトンボのオスです。この日はオスのみ一度だけ見られ、その後は現れませんでした。写真に撮れなかったのも、左は昨年7/9に牛久二中で写したものです。メスは全身黄色っぽい体で、他のトンボとよく間違えられます。

7. ウチワヤンマ (サナエトンボ科 ウチワヤンマ属)



このトンボの特徴なのか、1週間前の下見の時も含め、いつも決まった場所にとまっているようでした。腹部の先端に下向きの突起があるので、他のトンボとまちがえることはありません。遠くてよく分かりませんでした。図鑑によるとこの突起は、戦闘機の尾翼のように2枚開いているそうです。

その他、これも遠くてよく分かりませんでした。右のイトトンボの仲間が産卵しているシーンと、他のトンボを追い払うギンヤンマも見かけました。ほんの数時間でこれだけのトンボが見られたというのは、この公園の環境がトンボにとって生活しやすく、多様性に富んでいるということなのかもしれません。トンボだけでなく、継続して調査したら、もっといろいろなことが分かってきそうな気がします。

【理科支援員 宮内】

